

ケアマネジャー経験者のみなさんへ あなたも始めませんか？



(認知症支援) 専門職ボランティア

神戸市ではこれからも高齢化が進み、それに伴い認知症高齢者の数が増えることも予測されています。神戸市では平成30年3月に認知症の人にやさしいまちづくり条例が施行され、その一環として認知症診断助成制度が平成31年1月から開始しています。認知症診断助成制度は全国的にも先駆的な取り組みとして注目されており、多くの市民が関心を寄せています。

今後も増え続ける認知症高齢者や家族が診断後も地域で安心して自分らしく暮らせるためには、認知症について一定の専門性や経験がある幅広い人材が共に地域を作っていくことが重要であると考えているところです。

一方、介護保険制度の創設から21年が経過し、制度の要として重要な役割を果たしてきたケアマネジャーの中には既に現役を退いた方も多く、これまでのキャリアを生かした地域貢献の場を求める声も多く聞かれます。

そこで市内で活躍してこられたケアマネジャーの皆さんが、その経験とキャリアを生かしながら認知症高齢者等の診断後支援として、緩やかに本人や家族のフォローに関わっていただく「専門職ボランティア」制度を開始いたします。是非、皆さんのお力をお貸しください！

介護支援専門員の資格を活用したボランティア活動の意義

大人というものは、どんなに苦勞が多くても自分の方から愛していける人間になることなんだと思います。(いわさきちひろの言葉)

困っていることがあるのに、自分の口で言っても、うまく説明できない。相手にもすぐに理解してもらえない…(認知機能が低下した方の気持ち)

介護支援専門員は、老化等様々な要因で要介護状態になられた方へ自立支援のために、ご本人と信頼関係を築き、人生で出会ったことや様々な出来事を物語として傾聴され、共感できる専門職と考えています。

現在認知機能の低下がみられる方への支援として、神戸市認知症疾患医療センターが主催して集いの場を開催していますが、共感できる力をもっておられる介護支援専門員の皆様の協力が必要となっています。愛していける人間になることを目指して、是非この機会にボランティア登録をして、集いの場の運営の一助になっていただければ幸いです。

神戸市ケアマネジャー連絡会 伊賀浩樹

専門職ボランティア制度の詳細

【目的】

認知症疾患医療センターが主催する認知症サロン（交流会やピアサポート活動）の運営に協力するとともに、専門職ボランティアとして患者や患者家族の相談を受けて助言を行うことにより、住み慣れた地域で患者やその家族が安心してその人らしく生活できる、認知症の人にやさしいまちづくりに貢献していただきます。

【ご参加いただける方】

神戸市内に在住している又は、市内の事業所に勤務していた（いる）ケアマネジャー経験者

○資格の更新の有無は問いません。

○ボランティア活動に支障のない範囲で就労している方も含みます。

【活動場所】

市内7か所の神戸市認知症疾患医療センター

認知症疾患医療センター名	所在地
甲南医療センター	東灘区鴨子ヶ原
宮地病院	東灘区本山中町
神戸大学医学部附属病院	中央区楠町
神戸百年記念病院	兵庫区御崎町
兵庫県立ひょうごこころの医療センター	北区山田町（谷上）
神戸市立医療センター西市民病院	長田区一番町
新生病院	西区伊川谷町（閨和）

専門職ボランティア スタートアップ研修に寄せて

「この頃わからないことが多くなって、認知症かもしれない…」

この言葉は、ケアマネジャーとして利用者と向き合う中で幾度となく聴いてきました。

神戸市では認知症が早期に診断され必要な医療や介護につながる体制も整ってきました。しかし、その一方で「認知症と診断されたけれど心配で仕方がない」という方も少なくありません。次の一歩を踏み出せないまま、中には人との交流を拒み、孤立するケースもあります。早い段階で一緒に寄り添い、話を聴いてくれる人がいたらどれだけ心強いでしょうか。緊張や心の葛藤を理解し、時には「アハハ」と一緒に笑えるようなひと時を持つことが出来たら、どれだけ安心でしょうか。さあ、専門職ボランティアがスタートします。制度の両輪として大切に育まれていくことを心から願っています。

神戸ライフ・ケア協会 神谷良子

【活動内容】

認知症サロン事業とは以下のようなものが想定されています。

- ①認知症の疾患教育、ケアの方法、運動・栄養等に関する教室の開催に関すること
- ②認知症についての相談に関すること
- ③認知症の者等及びその家族同士の交流や、認知症の者によるピアサポート活動に関すること
- ④認知症の者等の家族によるピアサポート活動や家族のレスパイトケアに関すること
- ⑤認知症に関する情報発信や認知症に対する理解を得るための普及啓発に関すること

上記のサロン事業に、専門職ボランティアとして参加していただきます。相談対応は傾聴や一般的な助言を行うことが主で、具体的なケアワークを行うことは想定していません。ただし患者さんから聞いた情報で必要と思われるものは、センターの職員にお伝えください。

【身分等】

- ①この活動は、ケアマネジャー経験者の自由意思によるボランティアになります。
- ②ボランティアの位置づけのため謝礼はありません。認知症疾患医療センターに出務する日の交通費については定額（千円）をお支払いいたします。
- ③ボランティア保険は、財団が手続きを行い、保険料も財団が負担します。

専門職ボランティアのみなさまへ

神戸市では「認知症の人にやさしいまち」として、全国初の認知症の早期受診を支援する「診断助成制度」、認知症の方が外出などで事故に遭われた場合に救済する「事故救済制度」が平成 31 年度から開始されています。その結果認知症(MCI)と診断される人が増え、早期発見という意味では大きな成果がでてしていると聞いております。しかし、診断後の MCI レベルの方たちは、まだまだ力があり、自分なりの創意工夫をすることで、介護保険制度利用に至らなくても日常生活を続けていくことができる方も多くいます。ささいな生活の支障が出てきても、自分で対処しようとするのが人の当たり前の姿です。しかし、少しの無理を重ねるうちに、様々な問題が折り重なり、気づいたときには、周囲を巻き込んで、生活に大きな支障が出てしまっていることもたびたびあります。

このような方々の、最初のころの“ちょっとした不安や孤独感”を支えながら、“ちょっとした生活の支障”の相談窓口をインフォーマルな立場で担っていくのが「専門職ボランティア」だと思っています。今までの豊富な経験を活かし“ちょっとした支援”をしていただく事によって、その人らしい生き生きとした生活を少しでも長く続けていただくために、共に活動していきましょう。

平磯あんしんすこやかセンター 管理者(看護師・主任ケアマネジャー)鶴本和香

【専門職ボランティアとして活動するまで】

- ①登録申込書を財団に提出していただくことで登録を完了いたします。（登録にあたってご質問させていただくことがあります。）
- ②登録にあたっては、個人情報の保護等に関して誓約していただきます。
- ③希望する活動場所等、活動回数等をお聞きしたうえ、財団が認知症疾患医療センターとのマッチングを行います。原則として、1人のボランティアの方には、一つの認知症疾患医療センターで継続して活動いただきます。
- ④初回のボランティア活動については、認知症疾患医療センターとの打ち合わせを行います。2回目以降については、直接、認知症疾患医療センターとボランティアの方で連絡をとりあっていただきます。
- ⑤ボランティア活動に参加した場合は、活動報告書を財団に提出していただきます。報告書に基づいて交通費を支給いたします。（事後）
- ⑥専門職ボランティア活動の実施に際して、具体的な活動内容についてはセンターにお尋ねください。制度に関すること等に関しては、財団にお問い合わせください。
- ⑦専門職ボランティアの活動をより深めるために、財団がフォローアップ研修を開催する予定です。個別にご案内しますので、ご出席ください。

お問い合わせ・お申込みはこちら

一般財団法人 神戸在宅医療・介護推進財団
専門職ボランティア事務局 永田・小園
TEL：078-262-1153
FAX：078-262-1253

ケアマネジャー経験者の専門職ボランティアに期待すること

先日、日本の認知症ケアに深く関与された長谷川和男先生が亡くなりました。先生の「認知症になっても大丈夫な社会を作る」という意志は様々な形で広がり、全国的に認知症サポーター養成講座が開かれ、認知症ケアのことに意識を持った方々も沢山おられます。しかし、「認知症になっても大丈夫」といった状況にはまだまだほど遠い状況ではないでしょうか？世間では「認知」という呼称で、どこか見下している状況が見られ、「その人自身(の想い)」を中心にしていないケースが散見しています。今、様々な方が居て、みんながその人らしく暮らせる事を目指す「インクルージョン」な社会を作るという視点が改めて求められています。ぜひ、ケアマネジャーという専門職の価値・倫理、知識・技術を活かしていただきたいと感じています。

兵庫県対人援助研究所 主宰 稲松 真人